

2023. 1. 19

【日本貿易統計（22 年 12 月）】

世界景気の減速を反映し、輸出は軟調な動き

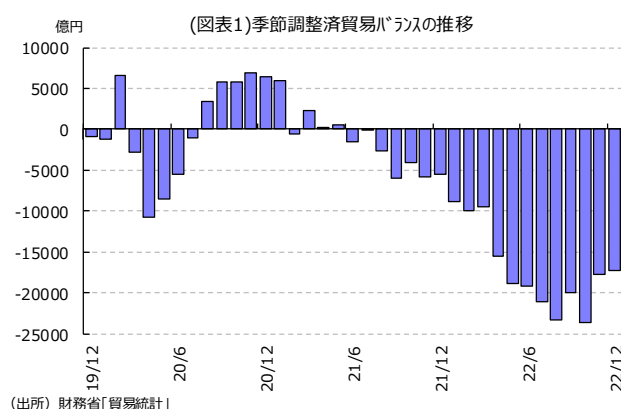
～輸出の回復は 2024 年度にずれ込むと予想～

経済調査部 エコノミスト 伊藤 基

1. 季調済の貿易収支は 19 ヶ月連続の赤字

財務省から発表された 12 月の貿易統計によると、輸出金額が前年比+11.5%、輸入金額が同+20.6%とそれぞれ前月（同+20.0%、同+30.3%）より伸びが鈍化する結果となった。

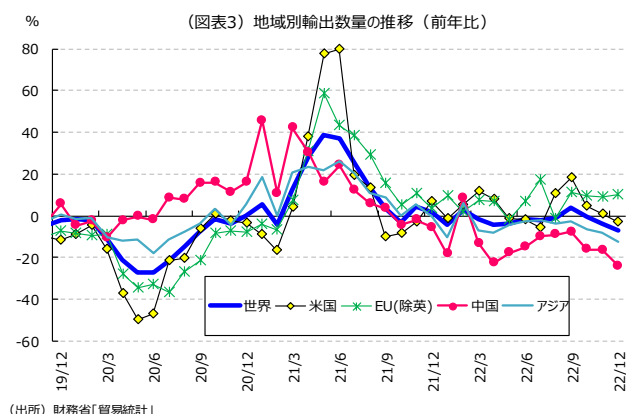
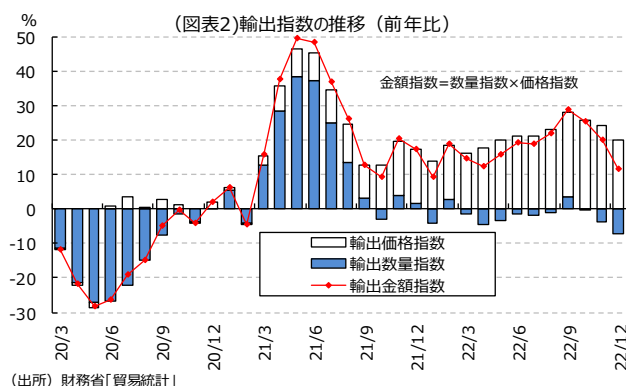
季調済前月比では、輸出金額が▲3.5%（11 月：▲1.4%）、輸入金額が▲3.4%（同▲6.3%）と、ともに 2 ヶ月連続のマイナスとなった。こうした下で、季調済の貿易収支は▲1兆 7,242 億円と、2 ヶ月連続で赤字幅が縮小した（図表 1）。



2. 米国向け輸出がマイナスに転じる

輸出金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+20.0%だったのに対し、数量指数が同▲7.1%と 3 ヶ月連続のマイナスであった。価格指数の大きな伸びによって輸出金額が膨らんでいる構図に変化は見られないが、数量指数のマイナス幅が拡大していることは、輸出の実勢が、世界景気の減速を反映して弱含んでいる様子を示している（図表 2）。

主要相手国・地域別の輸出数量指数を見ると、米国向けが同▲2.8%（11 月：同+1.0%）と 5 ヶ月ぶりにマイナスに転じた一方、EU（除英）向けが同+10.2%（同+9.1%）と堅調な伸びとなった。中国向けは同▲24.0%（同▲16.3%）と、マイナス幅は上海でロックダウンが実施されていた 2022 年 4 月以来の 20%超えとなった。（図表 3）。各国の動向を品目別に見ると、米国向けでは、自動車と同▲8.2%とマイナスに転じた。また、プラスチック（同▲8.0%）や鉄鋼（同▲8.3%）、原動機（同▲1.0%）などもマイナスとなっており、幅広い品目で輸出の増勢が弱まっている。



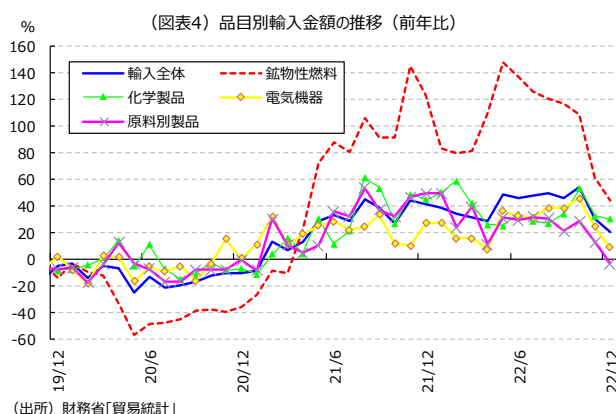
EU（除英）向けは、米国向け同様に自動車（同▲3.9%）

がマイナスとなった一方で、鉄鋼（同+163.5%）、原動機（同+20.5%）、半導体等製造装置（同+58.7%）などが堅調な伸びとなり、全体を下支えする結果となった。

中国向けは10ヵ月連続のマイナスかつマイナス幅が前月から一段と拡大した。コロナ感染拡大が続くなか、不動産市況も冴えず、足元で景気の下押し圧力が強まっている様子を反映している。品目別では、感染拡大による影響から医薬品（同+88.2%）が大きく伸びた一方で、鉄鋼（同▲29.5%）、原動機（同▲15.6%）、半導体等製造装置（同▲37.3%）、自動車（同▲62.5%）などといった主要品目は二桁のマイナスとなった。

3. 輸入金額は伸びが鈍化

輸入金額の前年比を価格と数量に分解すると、数量指数が前年比▲6.4%と2ヵ月連続のマイナスとなるなか、価格指数が同+29.0%と、前月（同+36.6%）から伸びが鈍化した。品目別の輸入金額を見ると、最も大きな構成比（約31%）を占める鉱物性燃料（同+44.1%）の伸びが前月（同+60.9%）から一段と縮小した影響が大きい（図表4）。原油をはじめとした資源価格が軟調に推移したことに加え、円/米ドル相場で円高ドル安の流れが強まったことが伸び鈍化に寄与したとみる。内訳を見ると、原油及び粗油（11



月：同+69.7%→12月：同+41.4%）や、液化天然ガス（同+51.9%→同+36.8%）などの伸び幅が前月から大きく鈍化した。数量ベースでは、液化天然ガス（同▲13.8%）が減少したほか、原油及び粗油（同+1.2%）、石炭（同+3.2%）などは小幅なプラスにとどまっている。鉱物性燃料以外では、電算機類（含周辺機器）（同▲29.3%）、非鉄金属（同▲13.8%）、通信機（電話機）（同▲18.5%）などが減少した。

4. 輸出の回復は2024年度にずれ込むと予想

先行きの輸出は、当面軟調な推移となる可能性が高い。米国では、FRB（米連邦準備制度理事会）による積極的な利上げの影響がラグを伴って実体経済に現れることで、春先以降、景気後退入りの可能性が高まっている。また、中国の景気回復もコロナ感染拡大の影響が尾を引く形となり、当面は力強さに欠く展開が想定される。不動産市場の低迷が経済活動を阻害する展開も続くだろう。欧州も、エネルギー問題やECB（欧州中央銀行）の積極的な利上げが景気の足枷になるとみる。

日本にとっては、主要輸出先の景気の先行き不透明感が強いなか、輸出が景気を牽引する展開は期待できない。また、為替市場において円高ドル安の流れが強まっていることも、輸出にとっては向かい風である。輸出の回復は、主要国の景気が底打ちから回復に向かう2024年度にずれ込むだろう。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411